

ひと

日口友好を目指す現役女子大生の声優

うえさか

上坂 すみれ さん(22)

モスクワの大ホールを埋めたロシアの若者たち。割れんばかりの拍手に、涙がこぼれた。11月、ロシア最大の日本ポップカルチャーの祭典「J-FEST」に初めて出演。自身が演じたアニメのキャラクターの声を披露し、デビュー曲を熱唱した。「ロシアに来て、皆さんに会うのが夢でした」

1991年12月のソ連崩壊直前に生まれ、共産主義時代のこの国を知らずに育った。ネットで見つけた旧ソ連の国歌を聴いて心揺さぶられた。でも、周囲の大人たちのイメージは「怖い国」。世界最高峰の音楽やバレエ、演劇、文学を育む一方、シベリア抑留や北方領土問題など暗い話題ばかり。「もうちょっと普通の人が住ん

でるんじゃないの?」。上智大学ロシア語学科に進学し、ロシア語演劇部の合宿で初めて訪れたモスクワ。若者たちと、日本の人気アニメやファッションの話題で盛り上がった。よく笑い、冗談も言いき、日本を尊敬している。まったく別のロシアが、そこにあった。

2年前、大学在学中にあこがれの声優に。約30のアニメやゲームに出演した。そして芽生えた夢。「仕事を生かして日口の人々を近づきたい」。チャンスを待った。「日本のポップカルチャーを通して、両国の若者が理解を深め合えば、領土問題解決の土台になる」。ロシアのアニメ出演が次の夢だ。

文・写真 関根和弘

デジタル版に動画

